

第1回安曇野市市立博物館整備方針検討委員会 会議概要

- 1 会議名..... 第1回安曇野市市立博物館整備方針検討委員会...
- 2 日 時..... 令和6年1月11日(木) 午後10時00分から11時50分まで
- 3 会 場..... 安曇野市役所 3階 共用会議室307...
- 4 出席者..... 笹本正治委員、百瀬新治委員、佐藤亜紀子委員、金井直委員、中村寛志委員、横山はるえ委員
倉石あつ子委員
- 5 欠席者..... 丸山亨委員
- 6 市側出席者..... 橋渡教育長、三澤課長、事務局、幅主査、那須野係員、原明芳館長、平沢重人館長、
寺島俊郎館長
- 7 公開・非公開の別..... 公開...
- 8 傍聴人..... 3人..... 記者..... 2人
- 9 会議概要作成年月日..... 令和6年1月17日

会 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 あいさつ(橋渡教育長)
- 3 委嘱書交付
- 4 委員自己紹介
- 5 経過説明
(事務局から経過説明)
- 6 委員長及び職務代理者選出
笹本正治委員を委員長に、百瀬新治委員を職務代理に、それぞれ選出した
- 7 協議
(1) 「安曇野市新市立博物館構想」の概要と課題について

(事務局から資料説明)

委員長 以前の構想を作るにあたっては、できるだけ広い視野で作るように心掛けた。しかしながら状況がだいぶ変わってきている。一方、安曇野市の博物館は、小さく人も足りていない中で、地域に根差して活動している。

委員 一つ目として、学校等の博物館利用の増加について。コロナ以降、オンラインで色々なことができるようになってきている。オンライン型と出前型の二通りのやり方に分かれてきた。そこで、「物理的な博物館」というものの求められ方が変わってきたように思える。博物館そのものは需要が高まっているだろうが、建物としての博物館の立ち位置が大きく変わっているのではないかと感じている。二つ目に、私は美術に関わっているが、美術館と博物館を分けるべきだ、という考え方は、設備はともかくとしてソフト面でどうなのか。例えば学芸員の雇用の問題。それに収蔵物の保存環境についても、美術のあり方が変わってきている。美術作品だから、博物館資料だから、ということではなく、国宝のような守るべきものと、触れて、体感するためのものというように美術と博物の垣根を越えつつある。このことは押さえておく必要があるだろう。ゆえに美術館と博物館を本当に分けるべきなのか、というのは考慮しておくべきである。

委員長 重要な指摘だ。今後検討を進める中で今の意見は汲み取る必要がある。デジタル化は勿論重要なのだが、現在、豊科郷土博物館が素晴らしい活動を展開できているのは、ひとえに人材のおかげだ。今後の議論の中でデジタル化と人材の問題はよく考えなければならないだろう。それから美術館と博物館に関して、確かに垣根は下がっているがそれと同時に問題も孕んでいる。小布施等の先行事例を見ながら、検討していかねばならない。保存環境についてだが、博物館美術館の最も重要な役割は資料の収集保管だ。博物館のための博物館ではなく、地域の文化を収集・継承し、将来に繋げる砦であるべき。

委員 この委員会での検討内容だが、資料には「新市立博物館の新設と既存博物館改修の選択の再考」

とあるが、これはこの委員会での任務なのか。それとも事務局がある程度方向性を出して、それを委員会で検討する、ということになるのか。例えばもし既存館の改修をするのだと言われれば、現場の者としては山ほど意見がある。ただそれはこの委員会でやるべき話なのか、と思うが。

事務局 もちろん委員会ではゼロから話をしてもらうのではなく、事務局でいくつか案を出し、それについて検討してもらうことになる。その中で、新しい博物館をどうするかによって既存館をどうするかも変わってくる。そのあたりまで事務局で案をまとめるつもりである。

委員 そうなると、「新設か改修か」の選択は委員会でするのではなく、事務局が示すということによいか。

事務局 後で再度説明するが、事務局案としては複数案を出す。その中から委員会で3～4つに絞ってもらいたい。それらの案の中に、新設案も改修案も含まれてくる可能性があると思っている。

委員 そうすると、ここで言っている「整備方針の検討」とは、「新設かもしれないし既存館の改修であるかもしれない」ということによいか。

事務局 その通りで、その辺りは今後議論していただく。

委員長 前回構想に当たっては、新設しましょう、そのためにはこういうところが課題だ、ということをはっきり述べている。それから状況が変わったのはあるにせよ、個人的にはやはり新設すべきだという意見は持っている。ただそれはそれとして、財政の問題もあるので、検討を進める中で「本委員会としてはA案を推奨したい、ただしどうしようもなければB案を勧めたい」という意見になってこようかと思う。そのためにも事務局としてはっきりした案を出してきてほしい。今のところ博物館不要論を唱える者はいない。そうすると市民に納得してもらうにはどういう案がよいか、というのが重要だ。繰り返しになるが博物館のためではなく、市民の文化向上のためにはどういう方向性がよいか、に重点を置いていきたい。

委員 資料を読んでみて、私としては新設なのかと思っていたが、他の方向性もあり得るとするのは今の話で理解した。それで質問だが、現行の構想の中で出されている必要な床面積等の数値は、既存の館等から計算されたものなのか、それともこういう展示をしていこう、という中から出された数字なのか。例えば自然史の展示をするならものすごく広いバックヤードが必要になるが。

事務局 現行構想の中にあるが、他の同規模程度の市町村の公立博物館の床面積から、平均的にこんなものだろうということ、それと現在の各既存館の展示スペースと収蔵スペースの状況から算出された数字である。

委員長 我々の大きな課題は、新設となったときに予算上どれだけの広さがとれるのか、ということ。ゆえに現行の計画にある面積は、今後の検討の方向性によって変わってくることもあり得る、としてお含みおきいただきたい。

(2) 「新市立博物館構想」の概要と課題について

(事務局から資料説明)

委員長 現行構想の中では、あくまで新設すべきだ、と結論づけている。なので本来ならば、この委員会でも新設を前提とすべきである。しかしながら改修の方向性も俎上に上がってくるということだ。ゆえに従前の議論で、市の課題解決のためには新設だ、としたのだから、改修案は新設案よりも優先順位として落ちるのではないかと考えている。

委員 新博物館のあり方として、文化観光という側面はやはり重要。それに加えて、エンターテインメント的な面も重要になってくる。造って終わりではなく、飽きられることなく多くの方が来てくれる魅力について、是非期待したい。安曇野の観光という面で考えると、冬季は非常に深刻。観光誘客のための素材が少ない。そういう点では博物館が観光面で果たす役割は大きい。そこに期待している。

委員長 私は個人的に他市町村の博物館にも携わっているが、スタンスはバラバラだ。例えばある博物館は観光面に寄りすぎていて市民が置き去りにされていると感じる。一方別のところでは観光的要素が少なく難しい。また別のところは、ソフト面で市民の文化活動を支えていきましょうね、とやっている。安曇野としてはそれらの両面を両立していかなければならない。税金で作る以上は市民の方を向いてい

ないといけない。そういう意味で、「新設か改修か」という検討の中で、どうすれば市民が来てくれるか、どうしたら観光面で誘客ができるか、をよく吟味していきたい。

委員 自分は長く学校に勤めており、現在の豊科郷土博物館で昔の暮らし体験教室などをやってもらいありがたかったなという思いがある。子どもたちにとっては博物館は身近に感じられたらと思う。そういうところは今後も是非残しておいてほしい。それから博物館法改正の中で、ユニバーサルデザインへの言及があった。様々な人にやさしい博物館であることは必須だ。もし現在の郷土博をユニバーサルデザイン改修をするにはどれだけかかるのか、という点は気がかりである。

委員長 資料の「本物の力」は凄い。先ほど話に出たデジタル化の部分でもそうだが、デジタル化から本物を見ていただくことに繋げていく必要がある。例えば山梨県立博物館では、民俗行事を博物館がやってみせ、それを住民が見に来るということをやっている。つまり博物館が地域の文化を伝え、途切れた文化を再構築しているのだ。安曇野で言えば、例えば三九郎のような当然の行事も北アルプスを背景にして行われる絵は非常に素晴らしく、観光要素にもなる。そういう当たり前の光景をよいものなのだと認識してもらうために、観光と博物館と連携してやっていかねばならない。それから安曇野の学校ミュージアムは日本の中でも最先端じゃないかと思う。あそこまでやっているのはなかなかない。そういうのを新しい博物館には求めている。ユニバーサルデザインの問題は重要であるが、やれることとやれないことはよく見極める必要がある。

委員 先ほどから出ているように、この委員会で何を検討するのか。よく考えなければならない。それから現行の博物館は慢性的なマンパワー不足。限界に近いはず。私も現在、地域行事をどう継承していくかという部分でかなり苦勞してやっている。事務局にはその辺りをよく考えてもらい、これから出してくる案の中に反映させてほしい。

委員長 新市立博物館の構想の中に、人の問題が含まれていない。どういう人材をどのように雇うのか。建物さえあればいいというわけではない。人材配置はハード整備の方針に影響を及ぼす。

委員 先ほど美術館と博物館の結合を一案として出したのは、人材採用、配置の安定化という側面もある。それは含んでおいてほしい。それから安曇野の特筆すべきものとして、環境が挙げられる。昨今問題になるエネルギー問題や生活環境という部分、気候変動、環境倫理、そういったことを今後の議論の中で早いうちから組み込んでいった方がいい。

委員長 安曇野は自然を理解しないと進めない。そのために委員に自然の専門家が入っていると理解している。よその博物館では自然と民俗、歴史が分断してしまっているようにも思う。それから人の問題については、現状常勤職員がほとんどおらず非常に不安定だが、地域をよくする核になるのは学芸員だ。整備方針の中に人の問題は織り込まなければならない。とりあえず今回の議論は前提の確認ということで、次回から今日出されたようなことを議論していきたい。

8 諸連絡

次回委員会については、年度開けて4月頃を予定している。また日程調整させていただく。
もし既存の館等見学したいという希望があれば申し出てもらいたい。

閉会 (11 : 50)